マイクロニクス

ハンディタイプで8.5GHz スペクトラムアナライザー

マイクロニクス（東京都八王子市小比企町二九八七―二、田中克彰社長）は一日から、世界初の八・五GHzまでをカバーするハンディタイプのスペクトラムアナライザー「MSA358」を発売した。

新製品は、同社が手がけるハンディタイプのスペクトラムアナライザー三・三GHzの「MSA338」に続く製品で、スペクトムラアナライザーのラインアップを図った。

田中社長は「通信の分野を含めて、フィールドで測定できる八・五GHz帯のスペクトラムアナライザーの需要は高いと思う。当社では、国内海外を含めてMSA358を年間一千八百台の販売を目標としている」と語った。

部品選択と回路の簡素化を図るだけでなく、組み立ての自動化により、周波数帯域が広いにもかかわらず、コストパフォーマンスに優れ、六十七万八千円（税別）を実現している。

二・四GHz／五GHz帯無線LANの電波環境測定やETCを含む五・八GHz帯DSRCの無線通信品質の評価に適している。測定周波数帯域は五〇KHzから八・五GHzまでなので、二・四GHzの三倍の

マイクロニクスのハンディタイプスペクトラムアナライザー「MSA358」

スプリアスを必要とするユーザーにも適している。

また、平均雑音レベルは一一〇dBmと大型のベンチタイプに引けを取らない性能で、チャンネルパワー・隣接チャンネル漏洩電力・占有周波数帯幅・電磁界強度の測定機能がある。

オプションのバッテリーを含めた重さは一・八キログラムで、大きさは一六二（W）×七〇（H）×二六〇（D）ミリメートルと小型軽量。

また、このアナライザーは、従来機で用意されている多数のオプション製品の使用ができる。

そのため、プリンターによる画面のハードコピーや「PCソフトウエアMSA300」を使用して、PC画面上に横軸一千点の高分解能でスペクトル波形を表示することも可能。